

平成29年度 月島第一小学校 外部評価報告書

外部評価委員：玉井達二、清水好子、増田光辰、木皿儀孝子、黒川悦子、茂田真吾(敬称略)
報告書作成者：峯川一義

評価時期 平成30年3月

1 重点目標の評価

(1) 重点目標1 (進んで学習に取り組む児童を育成する)

○今年度は算数の学習指導を重点にして、主に習熟度別に編制した中位の学級で研究授業を行い、児童の学習に向かう意欲を高めるとともに、指導上の課題を把握した。一年間の校内研究の取組の結果として、児童の変容を捉えるデータを示すことができると、成果が可視的になり、成果と課題がさらに明確になるであろう。

○75%以上の保護者は、授業参観などの機会をとおして、教師の学習指導に満足している。教師は、児童の学習に対する興味・関心・意欲等を高める研鑽に一層励み、さらに多くの保護者の期待に応えるようしたい。

(2) 重点目標2 (豊かな心を育む活動を推進する)

○読書習慣に対する児童と保護者の意識の割合は、高い数値でほぼ一致している。本校の特色として、今後も取り組んでいくとよい。

○挨拶については、外部評価委員からも「よくしてくれている」「礼儀正しい児童が多い」などと賞賛された。一方、校外での言葉遣いについては、十分ではないという指摘があった。学校の指導が校外でも行き渡るよう、一層の努力を期待する。

○保護者は、道徳教育について高い満足感をもっている。児童に対しては、行動や行為に対する意識調査だけでなく、内面的な道徳性を育成する道徳の授業についての調査も行い、重点目標2の次年度に取り組む課題を明らかにする必要がある。

(3) 重点目標3 (じょうぶな体、健康な生活習慣を形成する活動を推進する)

○保護者は、「明るく生き生きとした学校生活を送っている」や「健康・体力の増進に努めている」といった質問項目に高い満足感を示している。学校が、児童の体力づくりや健康の保持・増進に努めている様子がうかがえる。

○オリ・パラ教育などの取組は、アスリートと児童が直接触れ合う機会があり、貴重な体験が得られている。また、一校一国運動も充実した取組が行われており、2年後のオリンピック、パラリンピックに向けての機運が高められている。

2 今後の改善に向けた意見

○重点目標それぞれで、児童、保護者、教職員に対する質問が乖離しているものが多かった。区教委から示された「学校評価ガイドライン」の内容を再度確認の上、次年度以降の学校評価に生かしてほしい。

3 その他の意見

○特別な支援が必要な児童の指導について、当該児童に対する学校としての指導方針を明確にし、それを学習指導補助員等に伝え、連携・協力した体制を整備する必要がある。

○「安全についての配慮」の質問項目に対する「十分に満足」と回答した保護者は多くなかった。校内における備品や用品の整理は、児童の事故防止、安全点検という視点で、再度見直してほしい。

